

日本海ケーブルネットワーク株式会社（NCN）

2014年春季放送番組審議会議事録

■日時：2014年2月23日（月）午後1時半～3時

■場所：日本海新聞本社ビル6階会議室（鳥取市富安2丁目137番地）

■出席者

審議委員：福田京子（会長、地域づくりネットワーク代表）、河村壮一郎（副会長、鳥取短期大学教授）、福島勝平（鳥取市情報政策室長）、藤井拓也（倉吉市総合政策課広報係長＝代理出席）椎名克秀（三朝町企画観光課長）、田中衛（岩美町企画財政課長）、佐々木千代子（サラベル鹿野社長）、牧田幸一郎（三朝町賀茂地域協議会長）、熊埜御堂晋（山陰合同銀行鳥取営業部副部長）、古泉芳穂（岩美町ケーブルテレビ協力員）

※役職は当時、敬称略、順不同

NCN：富長一郎（常務取締役）、川口耕（編成制作部制作課長）吉田幹也（編成制作部広告課長）中嶋信行（倉吉センター係長）

■報告事項

①2013年度の取り組みについて

事務局が資料を基に2013年4月1日から2014年1月31日までの取り組みを報告した。

■協議事項

①自主放送番組について

NCNのニュース番組「ピットステーション」のほか、年始特番「映画『三朝少年物語』」「伝えたい～鳥取聾学校中学部の挑戦～」、討論番組「多事彩々」、しゃんしゃん祭り参加連紹介コーナー「舞人2013」などを視聴し、意見を募った。

委員からの意見と事務局の回答は次の通り

（委員）年始特別番組は内容もよく感動した。こういった番組を年始だけでなく、年に何回か織り交ぜながらやってほしい。

（委員）民放やNHKが取り組んでいるドキュメンタリー番組のように1年も2年も密着し、もっとこだわった画像や、地域に密着した番組に挑戦してほしい。

（委員）年末年始は良かった。素材の良さもあるが、よく見つけたと思う。いろんなルー

トで情報を入手してきた成果だと思う。

(事務局) 年始に放送した映画「三朝少年物語」は2年前に取材を始めた。時間をかけて制作することは難しいができる範囲で取り組んでいきたい。また、日々のニュース取材からこういった話題が出てくることもある。日々のニュースと番組制作のバランスを取るのには難しいが取り組んでいきたい。

また長いスパンで取り組んだのが鳥取聾学校の取り組み。今後も時間と労力をかけてやっていきたい。

(事務局) ケーブルテレビには地域の記憶箱のような機能が必要。番組コーナーに「わがまち百景」というものがある。数年前から取り組んでいるが、地域の風景を意識して撮り、定点観測し素材を積み上げていきたい。

また現在アーカイブも整理している。開局後20年撮りためたものを活用することを考えている。

(委員) 高校選抜のバスケットボールを放送し反響があったということだが、どういった反響があったのか。

(事務局) 関係者を通じて好評だったことが分かった。視聴者から直接意見が寄せられることはほとんど無いので視聴者目線の意見も聞きたい。

(委員) ケーブルテレビのいいところは繰り返し放送されること。地元ならではの人や身近な人を取り上げたような番組があればおもしろいと思う。

(事務局) 鳥取しゃんしゃん祭りの傘踊りと参加連を取り上げる企画を放送した。これは身近な人がテレビに出るということを意識した取り組み。しゃんしゃん祭りの踊りだけでなく参加する人の顔が出るということを意識して制作した。

(事務局) 今年度は番組制作のテーマとして「明日のカタチ」を掲げている。鳥取で未来を見据えて取り組む人をシリーズで取り上げていこうと考えている。

(委員) スポーツの話題がもっとほしい。結果だけでもいいので放送してほしい。そうすればもっと若い人にも見てもらえるのではないかと。

(事務局) 東京オリンピックが決まって以降、自治体もスポーツ振興に力を入れると聞いている。NCNも来年度以降スポーツに取り組んでいきたい。他の媒体で取り上げられているようなスポーツ以外の種目を取り上げたい。

(委員) 岩美町チャンネルについて、いい番組を作りたいが人や時間の制約もある。身近な情報を流しているのを見て頂いていると思うが、実際どれくらい見られているのか分からない。視聴率だけで判断はできないと思うがどうか。

(事務局)

岩美町チャンネルを見れば必ず町の出来事を放送しているため住民に浸透していると考えられる。会社見学に来た岩美町内の小学生に聞いても、全員が岩美町チャンネルを見たことがあると答えた。他エリアではないことだ。

(事務局) 日々のニュース番組は地上波放送のように視聴率が伸びることはない。

NCNでは繰り返し放送が基本で視聴率は瞬間的なものではなく累積の数字に重きを置いている。

(委員) 年始の特番として三朝少年物語が放送されたことで、映画を制作した国際交流員のアントニーさんや三朝町に町内外から反響があった。アントニーさんは今年度末で国際交流員の任期が終わる予定だったが、反響が大きかったこともあり来年度も三朝町の国際交流員を続けることになった。これは三朝町では前例のないこと。

(委員) 打吹まつりの放送について倉吉市に反響があった。祭りを中継すれば反響がある。

(事務局) 打吹まつりの生中継番組では10%を超える視聴率を記録した。数値化されることで、どのような番組が見て頂けるのか、発信力があるのかが視覚化される。伝えなければならない情報が伝わっているという感触を得ている。日常の番組と非日常の番組をどう組み合わせしていくのかというところが今後の課題と考える。中部チャンネルは議会放送や行政からのお知らせがメインになっているが、春以降強化したい。徐々にHDコンテンツも撮りためている。

(委員) 市民レポーターなどを使っても面白いかもしれない。

(委員) 立ち上げ当初に比べ番組のバリエーションも増えている。グローバリズムが進む中で地域に密着する姿勢は重要。中央寄りになる傾向がある中、地域密着で情報共有し地域振興に寄与してほしい。

(委員) 山陰の地上波放送局は地域情報に力を入れている。NCNは強みを出すために地域に徹底的にこだわってほしい。部活動や、そこまでは取り上げられないだろうということまで突っ込んでいくとか、祭りを完全中継するなど地上波にできない取り組みが強みになる。

(事務局) 他にない強みは何かということを年始番組では考えた。映画「三朝少年物語」や幕末の鳥取藩を描いた映画「維新の魁」をそのまま流すことはケーブルテレビならではと考える。また、どうしてこの映画が作られたのか、その背景や熱い思いを紹介する特集を作ろうと取り組んだ。番組を放送することで、地域に新しいものを生み出すということを意識して番組制作している。

(委員) 日々の暮らしはよく取材している。自然に関するトピックスがもうちょっとあってもいい。  
これだけ近くに自然があるのに、それほど自然に親しんでいない。そういった魅力を発信してほしい。

(委員) 番組審議会だけでなく視聴者が意見を出しやすい環境がほしい。

(委員) 身近な話題やまちの話題を取り上げてもらえるのはありがたいが、いつ放送されているのかわかりにくい。  
できれば、もっとニュースの本数や時間を増やしてほしい。

(事務局) 放送予定については新聞やホームページで案内している。ニュースに関しては放送当日にホームページでニュース項目を掲載している。一部のニュースはホームページで動画を視聴することができる。